



みちくさ

2016.10.7 No.31

真田幸村

NHKで放送している「真田丸」がいよいよ佳境に入ってきています。前回の放送では、白石の片倉家とかかわりが出てくる娘の梅が登場したり、父と運命を共にする大助の成長が描かれたりと、歴史ファンにとってはたまらないところです。ところで、今回のドラマの脚本家は三谷幸喜さんが担当しています。コミカルでテンポの速い演出と、自分も持っているイメージと少し違う内容とで、面食らうこともあります。

昭和60年に、真田太平記は一度放映されていて、その時の信繁役は、今回の昌幸を演じた草刈正雄さんでした。原作は池波正太郎さんの小説なのですが、これがまた長編でけっこう読み応えがあります。私は通算3度読みました。草の者と呼ばれる忍者も出てきて、徳川方の忍者との攻防にワクワクしました。このときの印象が強すぎるのかも知れませんね。

昭和60年というのは、ちょうどうちの息子の産まれた年なのですが、実は産婦人科の分娩室の廊下で、息子が産まれるのを待ちながら、まさに大阪夏の陣に入った場面を読んでおりました。(どちらもワクワクドキドキしましたが)



ところで、上田市を観光したことが一度ありますが、博物館や池波正太郎の記念館などもあり、真田ファンなら退屈しません。上田駅からお城までそんなに遠くないので、のんびりと景色を楽しみながら歩いて行けます。今ごろは真田丸フィーバーで混んでいるのかも知れませんね。いずれ、大阪の天王寺区にあるという真田丸の曲輪の跡をそのうちに訪ねてみたいなあと思っております。遠い昔に思いを馳せながら、史跡を巡るのも、みちくさの楽しみの一つです。

続・木組みの心

宮大工の西岡常一さんのお話は前に書かせていただきました。弟子はとらないという西岡さんでしたが、実は初めて西岡さんに内弟子として認められ、現在、日本を代表する宮大工の棟梁になり、鶴工舎(いかるがこうしゃ)という会社をつくり、後進の育成に当たっている人がおります。その



方は小川三夫さんという方です。修学旅行で法隆寺を見て感動し、ぜひこういう堂塔建築をしてみたいと思い立った小川さんですが、西岡さんのところに弟子入りを頼みに行っても断られます。しかたなく、一年間仏壇をつくる会社に就職します。少しでも宮大工に近い仕事をしたいと思ったからです。そして今度は文化財の図面描きの仕事を二年間行いました。そして22歳になって、ようやく内弟子として住み込みで修業をすることになりました。しかし、棟梁から教えられたことはたった一つ。刃物を研ぐということでした。西岡棟梁が削ったかんなくずは、あまりの薄

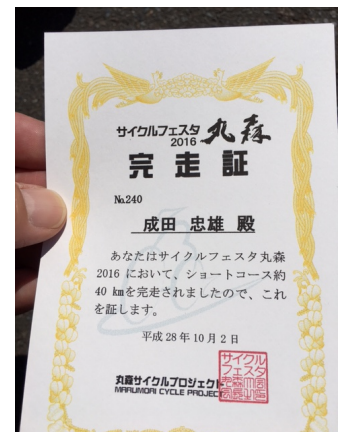
さに向こう側が透けて見えるのです。そのかんなくずを窓ガラスに貼り付け、同じように削れるまで、ただひたすら刃物を研いだということです。

職人への教え方は、学校のそれとは全く違うと彼の執筆した本に書いてありました。弟子として受け入れるのは中学を卒業した頃で、自分の身体の成長とともに大工としての身体が成長していくのだそうです。大人になり、ある程度成長が止まってしまってから大工の修行をしても、それはなかなか身につけていけないとのこと。内弟子に入った後、どれだけ小川さんが努力したか、簡単ではなかったと察することが出来ます。

小川さんは30歳を過ぎる頃に独立して自分の会社をもちます。寺社建築専門の会社を創設し、そこから巣立った弟子は100人を超えるそうです。法隆寺の大修理は終了し、これから300年から400年は大丈夫なのだそうですが、その後また大修理が必要になります。技術は蘇り、後進に伝えていくことが出来るのですが、今問題なのはいずれ材木がなくなってしまうということです。お寺で山を育てるようにして、資源を育てていくのが課題だそうです。現に、前回、薬師寺の三重の塔を建築した時や法隆寺の修理を行った時に、柱になるような太いヒノキは国内には既に存在してなく、台湾から輸入したそうです。

サイクルフェスタ丸森 2016

10年前からサイクリングを楽しんでいます。全くの自己流で、ほとんど一人で走っています。やがて体力は落ちていくだろうから、その前に一度でも大会と名のつくものに出てみようかなと思い、3年間勤めた経験のある丸森町で企画している大会に参加しました。ところで、近年のサイクリング人気には驚かされます。募集はネットから行うのですが、申込み解禁日スタート時から20分くらいで、定員の300名は埋まってしまいました。のんびり構えていた私は申込みが出来ず、しかたなく、今回は空いていた40キロのショートコースへ参加しました。



スピードを競うものではなく、楽しく決められたコースを規定時間内に走るような大会です。時間差をつけてスタートするのですが、どうしても前を走っている人がいると、年甲斐もなく抜かしたくなるのです。練習で走ったときよりもかなり短い時間で回ってきました。

途中、何か所かエイドステーションがあり、そこでおにぎりとかお餅とか、おふるまいがあるのです。いずれも美味しそうな地元のもので、そこでゆっくり食べたいと思うのですが、でも食べ過ぎると走れなくなるのは分かっているので、食べたい欲求を我慢して走りました。沿道から町民の方々が声援を送ってくれるので、とっても力になりました。元気ならまた来年も参加したいなと思います。次はロングの78キロコースへ挑戦です。